

## 社会学研究科

## I 2020年度大学評価委員会の評価結果への対応

## 【2020年度大学評価結果総評】(参考)

社会学研究科では、昨年度「公開シンポジウム」を社会学部学会と共催で実施し、意義ある議論ができたことにより社会学研究科での教育・研究の成果について、社会への情報発信が行われ、社会貢献への道が開かれたことを契機として、今後これを継続的な取り組みとするための工夫を期待したい。英語による研究成果の公表のための「社会学研究1」の継続的な担当体制を確立したことを受けて、学生の履修登録を促して履修者の増加を図ると共に、さらに履修者について英文論文の執筆、国際学会での報告等を積極的に行うことを促すなどの一層の取組みが期待される。大学院修了者の進路拡大のための取り組みとして、2019年度の研究実績目録を作成してウェブ上で公開するなどの地道な試みを継続することも期待したい。

## 【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

社会貢献への取り組みとして2019年度に行われた「公開シンポジウム」については、継続にむけた検討が順調に進んでいる。2020年度はシンポジウムの継続に必要な体制整備について学部学会運営委員会と意見交換を行い、教授会にその結果が共有された。今後、シンポジウムの継続開催の実現に向けて、より具体的な検討を進める予定である。英語による研究成果の公表のための科目である「社会学研究1」については、オリエンテーション資料等を通じてその重要性和有効性を周知した結果、受講者が前年度より増加した。受講者の英文論文の執筆や国際学会での報告等の促進に向けて、今後は「社会学研究1」の継続的履修の推奨に努めたい。大学院修了者の進路拡大のための取り組みとしては、研究科HPに研究業績目録に関する項目を新設し、より可視的な形で2019年度研究業績目録の公開を行った。

## 【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

社会学研究科においては、社会貢献への取り組みとして、シンポジウムの継続に必要な体制整備を学部学会運営委員会と意見交換を行い、継続開催の実現に向けて具体的な検討を進めている点が評価できる。

また、英語による研究成果の公表のための科目である「社会学研究1」について、その重要性和有効性を周知したことにより、受講者が前年度より増加し具体的な成果が得られている。

大学院修了者の進路拡大のための取り組みとしては、研究科HPに研究業績目録に関する項目を新設し、より可視的な形で2019年度研究業績目録の公開を行った点が評価できる。

## II 自己点検・評価

## 1 教育課程・教育内容

## 【2021年5月時点の点検・評価】

## (1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っているか。

S  A B

※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。

理論系科目、領域別科目、および社会調査・データ分析などの方法論に照準化した科目からなるコースごとの学習体系と並行して、各学生の修士論文執筆に向けた研究活動を支援し、指導していくための「総合演習」を設置している。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

・特になし。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・法政大学大学院学則第10条、第22条、別表I。

・「大学院要項」、修士課程の修了要件。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

|  |  |
|--|--|
| ・「大学院講義概要（シラバス）」   |  |
| ②博士後期課程において授業科目を単位化し、修了要件としていますか。  | はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>                         |
| <b>【根拠資料】</b> ※「はい」を選択した場合に単位化及び修了要件として設定されていることが確認できる資料を記入。<br>・法政大学大学院学則第 10 条、第 26 条、別表Ⅱ。<br>・「大学院要項」、博士後期課程の修了要件。<br>・「大学院講義概要（シラバス）」  |  |
| ③博士後期課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。   | S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> |
| ※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。<br>リサーチワークとしての論文指導をカリキュラムの柱として位置づけ、また、博士論文作成に至る里程碑を明確にして、これを学生には提示している。<br>また、査読付き学会誌への論文投稿の訓練の場として「社会学総合演習 A」を設け、社会学研究科の教員による「模擬査読」を行い、学生の学術論文執筆のスキルの向上を図っている。博士論文の構想とその進捗状況を報告する場として「社会学総合演習 B」を設け、博士論文完成に向けた指導を複数の教員で行っている。   |  |
| <b>【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。<br>特になし。   |  |
| <b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。<br>・「博士論文までの里程碑」<br>・法政大学大学院学則第 10 条、第 26 条、別表Ⅱ。<br>・「大学院要項」、博士後期課程の修了要件。<br>・「大学院講義概要（シラバス）」   |  |
| ④専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。   | S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> |
| ※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。<br><b>【修士】</b><br>社会学コース、メディアコースのいずれにおいても、各領域の第一線に立つ研究者、実務経験者によって大学院教育にふさわしい内容の教育が行われている。また、優れた研究者を毎年の集中授業形式で学外から招聘する科目「社会学特殊研究 5」、「社会学特殊研究 6」を設置している。「専門社会調査士」の資格取得のためのプログラムも学内に準備し、研究者として必要な技能の習得も可能になっている。メディアコースには実践的科目として「取材文章実習」、「調査報道実習」の科目が設けられている。 |  |
| <b>【博士】</b><br>社会学における各領域の第一線に立つ研究者によって大学院博士課程にふさわしい内容の教育が行われている。社会学の基本的著作を精読し、その分析枠組みや方法論について深く学ぶ「社会学原典研究 1」「社会学原典研究 2」の授業が置かれている一方で、査読付き論文の執筆の仕方を学ぶ「社会学総合演習 A」や英語論文の執筆のコツを学ぶ「社会学研究 1」など、研究者のキャリア形成に不可欠な実践的なスキルを習得するための授業も置かれている。また、博士論文の構想およびその進捗について複数の教員が参加しコメントする「社会学総合演習 B」を設置し、博士論文執筆に向けた指導を行なっている。         |  |
| <b>【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。<br>・特になし。  |  |
| <b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。<br>・法政大学大学院学則別表Ⅰ、Ⅱ。<br>・「大学院講義概要（シラバス）」   |  |
| ⑤大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。  | S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> |
| ※大学院教育のグローバル化推進のために行っている取り組みの概要を記入。<br><b>【修士】</b>   |  |

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

|  |  |
|--|--|
| <p>修士課程の留学生の授業での報告や修論執筆に関して、ピアサポートとしてのチューター制度の効果的な運用により、博士後期課程の院生による研究指導の支援を図っている。</p>   |  |
| <p><b>【博士】</b><br/>英語で学術論文を執筆し、出版するまでに必要な事項を学ぶ科目「社会学研究1 (Academic English Writing Skills for the Social Sciences)」が設けられている。担当教員の退職により 2018 年度はこの授業を休講せざるを得なかったが、2019 年度に社会学部の英語教員が「社会学研究1」を継続的に開講する体制が確立され、以降毎年度開講されている。</p> |  |
| <p><b>【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。<br/>・特になし。</p>  |  |
| <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。<br/>・法政大学大学院学則別表Ⅱ<br/>・「大学院講義概要 (シラバス)」</p>  |  |
| <p>1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。</p>  |  |
| ①学生の履修指導を適切に行っていますか。   | S <input checked="" type="checkbox"/> A B  |
| <p>※履修指導の体制及び方法を記入。<br/><b>【修士】</b><br/>・科目の履修や修論に関して、各学生の指導教員による指導に加えて、教授会執行部、教務委員がオリエンテーションその他の機会に適宜相談に応じる形で行っている。<br/>・指導教員による個別の指導に加え、修士課程では必修科目である基礎演習などにおいて研究経過の報告を求め、複数教員のアドバイスが可能になるように工夫している。</p>                   |  |
| <p><b>【博士】</b><br/>・科目の履修や博士論文の執筆などに関する指導は、各学生の指導教員による指導に加えて、教授会執行部、教務委員がオリエンテーションその他の機会に適宜相談に応じる形で行っている。<br/>・指導教員による個別の指導に加え、博士課程では必修科目である「社会学総合演習 B」などにおいて研究経過の報告を求め、複数教員のアドバイスが可能になるように工夫している。</p>                       |  |
| <p><b>【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。<br/>特になし。</p>   |  |
| <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。<br/>・新入生オリエンテーション資料</p>  |  |
| ②研究科(専攻)として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。  | <input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ |
| <p>※ここでいう「研究指導計画」とは、事務手続きのスケジュールやシラバス等の個別教員の指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導体制及び研究指導スケジュールをまとめたものを指します(学位取得までのロードマップの明示等)。また、「あらかじめ学生が知ることの状態」とは、HP や要項への掲載、ガイダンスでの配布等が考えられます。</p>   |  |
| <p><b>【修士】</b><br/>4 月初めのオリエンテーションにおいて、修士課程の学生に向けた「修士論文提出までのタイムスケジュール」を配布するとともに、そのプロセスを口頭で説明している。</p>  |  |
| <p><b>【博士】</b><br/>4 月初めのオリエンテーションにおいて、博士後期課程の学生に向けた「博士論文までの里程碑」を配布するとともに、そのプロセスを口頭で説明している。</p>  |  |
| <p><b>【根拠資料】</b> ※研究指導計画が掲載された文書・冊子等の名称を記入。<br/>・大学院講義概要 (シラバス)。<br/>・「修士論文提出までのタイムスケジュール」。<br/>・「博士論文までの里程碑」</p>  |  |
| ③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。  | <input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ |

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

|   |   |
|---|---|
| ※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。   |   |
| <b>【修士】</b><br>修士課程についてはそれぞれのコースで「総合演習」を実施し、計4回修論に向けた研究経過の報告を求め、これに応じて研究経過・計画についての指導を行っている。4回の「総合演習」は各コースの必修単位である「基礎演習」と連携して行われるものとして学生に義務づけられている。  |   |
| <b>【博士】</b><br>博士後期課程では、「社会学総合演習A」において、査読付き学術雑誌への投稿論文の執筆指導を行った。また、「社会学総合演習B」では、博士論文執筆に向けての研究計画と経過の報告にたいして、複数教員による指導を行った。これらの科目は最短修了までの6セメスターに配置された「博士論文指導」とともに修了要件科目とされている。   |   |
| <b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・法政大学大学院学則第10条、第26条、別表Ⅱ。</li> <li>・「大学院要項」、博士後期課程の修了要件。</li> <li>・「大学院講義概要（シラバス）」</li> <li>・第1回総合演習（社会学コース、メディアコース）、第2回総合演習（社会学コース、メディアコース）、第3回総合演習（社会学コース、メディアコース）、第4回総合演習（社会学コース、メディアコース）のスケジュール</li> <li>・「社会学総合演習A」「社会学総合演習B」のスケジュール</li> <li>・修士課程「総合演習」の運用に関する基本的な考え方</li> </ul> |   |
| ④通常の教育課程や教育方法に加え、COVID-19への対応・対策として、教育内容、教育方法、成績評価等の一連の教育活動において工夫を講じていますか。行っている場合はその内容と教育活動の効果について教えてください。  |   |
| ※取り組みの概要を記入。<br>COVID-19感染拡大の情勢によらず授業を実施できる方法としてオンライン授業を導入している。オンライン授業の導入により、海外滞在中の留学生や特別な事情のある学生にも授業の受講が可能となっているほか、通学の負担が軽減されキャンパスを超えた授業の受講が容易となった側面もあると考えられる。   |   |
| <b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年度社会学研究科院生との懇談会（2021年1月19日開催）議事メモ</li> <li>・留学生懇談会（2021年3月2日開催）議事メモ</li> </ul>  |   |
| 1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。  |   |
| ①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。  | S <input checked="" type="checkbox"/> A B                           |
| ※成績評価と単位認定の確認体制及び方法を記入。   |   |
| <b>【修士】</b><br>基本的には、各科目の担当教員に対する相互信頼を尊重している。   |   |
| <b>【博士】</b><br>基本的には、各科目の担当教員に対する相互信頼を尊重している。   |   |
| <b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>  |   |
| <b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>  |   |
| ②学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。  | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| ※学位論文審査基準の名称及び明示方法を記入。  |   |
| <b>【修士】</b><br>2011年度に定め、2017年度に改定した学位論文の審査基準を学生全員に周知している。  |   |
| <b>【博士】</b><br>2011年度に定め、2017年度に改定した学位論文の審査基準を学生全員に周知している。  |   |
| <b>【根拠資料】</b> ※学位論文審査基準にあたる文書の名称を記入。また、冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。  |   |

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

|   |  |
|---|--|
| ・法政大学大学院社会学研究科学位論文審査基準  |  |
| ③学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）を把握していますか。  | はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ |
| ※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。<br>最近約15年間について学位授与者数を一覧にして状況を把握している。   |  |
| 【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。<br>・学位取得状況（2005-2020）。   |  |
| ④学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。   | S <input checked="" type="checkbox"/> B    |
| ※取り組みの概要を記入。<br><b>【修士】</b><br>修士論文判定の教授会後、教授会懇談会を開催し、教育課程の見直しと同時に、提出、評価された修士論文の内容、水準を含めた修士学位授与の適切性の検討を行っている。<br><b>【博士】</b><br>判定の教授会の他に教授会懇談会を開催し、教育課程の見直しと同時に、提出、評価された博士論文の内容、水準を含めた博士学位授与の適切性の検討を行っている。<br><b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。<br>特になし。  |  |
| 【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。<br>・教授会懇談会（2021年1月23日）議事録<br>・法政大学学位規則<br>・「社会学研究科博士学位申請論文受理小委員会および、審査小委員会の内規」   |  |
| ⑤学位授与に係る責任体制及び手続を明らかにし、適切な学位の授与が行われていますか。   | S <input checked="" type="checkbox"/> B    |
| ※責任体制及び手続等の概要を記入。ただし、博士については、学位規則のとおりに行われている場合には概要の記入は不要とし、「学位規則のとおり」と記入。<br><b>【修士】</b><br>修士課程においては、指導教員による論文指導を中心としつつ、4セメスターをとうじて4回の総合演習での発表を修士論文の提出要件とすることで、他の教員による研究上の助言を確実に受けられる機会を設けている。<br>修士論文の審査は、指導教員を主査とし、修士論文の予備登録の段階で副査を選任して、2名の教員によって提出された修士論文の審査と口述試験を行っている。それらの結果を修士論文判定教授会に報告し、併せて提出された修士論文を回覧し、修士論文の可否、評価を研究科教授会の合議によって決定する。<br><b>【博士】</b><br>学位規則のとおり。<br><b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。<br>・特になし。 |  |
| 【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。<br>・「大学院要項」  |  |
| ⑥学生の就職・進学状況を研究科（専攻）単位で把握していますか。   | はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ |
| ※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。<br>2020年度修士課程修了生の進路について、就職、進学、帰国等のアンケートを実施した。  |  |
| 【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。<br>・2020年度社会学研究科修了者進路調査票の回収済み個票。   |  |
| 1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。  |  |
| ①分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。   | S <input checked="" type="checkbox"/> B    |
| ※取り組みの概要を記入。  |  |

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

|   |   |
|---|---|
| <b>【修士】</b>   |   |
| 学位論文審査にあたり、提出された論文の分野の特性に応じた学習成果を測定するにふさわしい審査委員を選び、論文の審査に当たっている。  |   |
| <b>【博士】</b>   |   |
| 学位論文審査にあたり、提出された論文の分野の特性に応じた学習成果を測定するにふさわしい受理小委員会および審査小委員会のメンバーを選び、論文の審査に当たっている。  |   |
| <b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。  |   |
| 特になし。   |   |
| <b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。  |   |
| 特になし。   |   |
| ②具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。  | S <input checked="" type="checkbox"/> A B |
| ※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ループブックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価卒業生アンケートの活用状況等。   |   |
| <b>【修士】</b>   |   |
| 大学院における学習成果は、個別科目での成績評価以上に、修士論文において問われるものと考えている。2020年度には4件の修士学位を授与した。   |   |
| <b>【博士】</b>   |   |
| 大学院における学習成果は、個別科目での成績評価以上に、博士論文において問われるものと考えている。2020年度には、2件の博士学位を授与した。  |   |
| <b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。・特になし。  |   |
| <b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。  |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年度第12回教授会（2021年1月23日開催）議事録</li> <li>・学位論文審査報告（2021年1月26日、2021年2月24日）</li> </ul>   |   |
| 1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。  |   |
| ①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。  | S <input checked="" type="checkbox"/> A B |
| ※検証体制及び方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。  |   |
| <b>【修士】</b>   |   |
| 教育成果がもっとも明確に問われるのは修士論文の審査時点であり、提出された論文の評価と同時に、その教育のプロセスの適切性について意見交換がなされている。   |   |
| <b>【博士】</b>   |   |
| 教育成果がもっとも明確に問われるのは博士論文の審査時点であり、提出された論文の評価と同時に、その教育のプロセスの適切性について意見交換がなされている。   |   |
| こうした従来からの本研究科の基本的見解を堅持しつつ、博士後期課程在籍者を対象に、冊子体、およびウェブ上での公表を前提として2016年度から作成を始めた「社会学研究科社会学専攻 博士後期課程 研究業績目録」を2020年度も作成した。学習成果の定期的な検証、教育課程及びその内容、方法の改善・向上につなげていく取り組みとして、このようなかたちでの院生の研究業績の定期的な把握を今後も進める。 |   |
| <b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。・特になし。  |   |
| <b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。  |   |
| ・2020年度版「法政大学大学院社会学研究科社会学専攻 博士後期課程 研究業績目録」  |   |
| ②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。   | S <input checked="" type="checkbox"/> A B |
| ※取り組みの概要を記入。  |   |
| 履修者が5名以下の授業が多いためにアンケートは行っていないが、院生との話し合いの機会である主任会見を年1  |   |

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

回実施し、学生からのさまざまな要望をよりきめ細かに聞く機会を設けている。さらに、この主任会見の要望書には十分に反映されていない教育研究上の課題を検証するために2016年度以降実施している「院生との懇談会」を2020年度もおこない、教育課程及びその内容、方法の適切性についてより広範に点検・評価を行った。外国人留学生と執行部との懇談会やチューター懇談会も開催し、多様な入学者への対応についての問題点を摘出し、教授会での共有を図った。

**【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】** ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

・特になし。

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2020年度専攻主任会見要望・提案書に対する回答書（2020年11月17日）
- ・2020年度社会学研究科院生との懇談会（2021年1月19日開催）議事メモ
- ・2020年度留学生懇談会（2021年3月2日開催）議事メモ
- ・2020年度チューター懇談会（2021年3月2日開催）議事メモ

## （2）長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

| 内容  | 点検・評価項目      |
|---|--------------|
| ・「社会学研究1」を社会学部英語教員による兼担という形で継続的に開講し、英語による研究成果の公表に向けた支援を行っていること。 | 1.1④         |
| ・「社会学総合演習A」で模擬査読と合評を行い、査読付き学術誌への論文投稿の支援を行なっていること。               | 1.1⑤<br>1.5① |
| ・博士後期課程在籍者の研究業績目録を作成し公表したこと。                                    | 1.5②         |
| ・執行部と社会学研究科院生との様々な懇談会を実施したこと。                                   |              |

## （3）問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

| 内容    | 点検・評価項目 |
|-------|---------|
| ・特になし |         |

## 【この基準の大学評価】

社会学研究科においては、修士課程において、コースごとの学習体系と並行して、各学生の修士論文執筆に向けた研究活動を支援し、指導していくための「総合演習」を設置している。また、博士後期課程においては、論文指導をリサーチワークとしてカリキュラムの柱に位置づけ、博士論文作成に至る里程標を明確にして学生に提示するなど、コースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、研究者を養成するための実践的教育を行っている点が評価できる。さらに博士後期課程においては、査読付き学会誌への論文投稿のための指導の場を設置してきめ細かな指導を行い、学生の学術論文執筆のスキルの向上を図っている点も評価できる。

博士後期課程には英語で学術論文を執筆し、出版するまでに必要な事項を学ぶ科目「社会学研究1 (Academic English Writing Skills for the Social Sciences)」が設けられており、大学院教育のグローバル化推進に積極的に取り組んでいる点が特筆される。

また、教育研究上の課題を検証するために「大学院生との懇談会」を行い、教育課程及びその内容、方法の適切性についてより広範に点検・評価を行っている点が評価できる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

2 教員・教員組織

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

|   |   |
|---|---|
| 2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。  |   |
| ①研究科（専攻）独自のFD活動は適切に行われていますか。  | S <input checked="" type="checkbox"/> A B |
| <p><b>【FD活動を行うための体制】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年1回3月修了の修士論文判定のための教授会後に懇談会を開催して、研究科における研究指導上の諸課題、制度的課題等について議論する機会を設けている。</li> <li>・特に入学者の多様化にともなうチューター制度の有効活用のほか、修士論文・博士論文の指導、審査基準、早期修了制度、留学生に対する指導、メディアコースの今後などのテーマを取り上げてFDの展開をはかっている。</li> </ul> <p><b>【2020年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年1月23日開催の教授会懇談会では、今後の時間割編成方針や総合演習を中心に議論した。</li> </ul> <p><b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教授会懇談会（2021年1月23日）議事録</li> </ul> |   |
| ②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。   | S <input checked="" type="checkbox"/> A B |
| <p>※取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会学研究科による社会貢献・社会連携として2019年度に「公開シンポジウム」を開催し、昨年度よりこのシンポジウムの継続に向けた検討を進めている。2020年度は、「公開シンポジウム」の継続に必要な体制整備について社会学部学会運営委員会と意見交換を行い、教授会懇談会でその結果の共有を図った。</li> </ul> <p><b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会学部学会運営委員会とのミーティング議事録（2020年11月10日）</li> <li>・教授会懇談会（2021年1月23日）議事録</li> </ul>  |   |
| ③組織編制やFD等に関して、COVID-19への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。  |   |
| <p>※取り組みの概要を記入</p> <p>COVID-19感染拡大の情勢によらず教授会や社会学部学会運営委員会等との会議を確実にを行う方法として、オンライン会議を積極的に導入している。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入</p> <p>特になし。</p>   |   |

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

| 内容   | 点検・評価項目 |
|--|---------|
| ・社会貢献・社会連携の方法としての「公開シンポジウム」の継続開催実現に向けた検討を着実に進めていること。 | 2.1②    |

(3) 問題点・課題

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。



※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既の実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

| 内容    | 点検・評価項目 |
|-------|---------|
| 特になし。 |         |

**【この基準の大学評価】**

社会学研究科においては、FD 活動を行うための体制として、修士論文判定のための教授会の後に懇談会を開催し、入学者の多様化にともなうチューター制度の有効活用や修士論文、博士論文の指導、審査基準、早期修了制度、留学生に対する指導など、研究指導上の諸課題、制度的課題等について幅広く検討がなされている点が評価できる。

社会貢献・社会連携について、2019 年度には「公開シンポジウム」を開催し、今後のシンポジウムの継続的な開催に向けて検討が進められている点が評価できる。今後、With コロナ、ポストコロナに向けて、「公開シンポジウム」のあり方に関する検討がさらに進められることが期待される。

**3 その他の基準の COVID-19 への対応**

**【2021 年 5 月時点の点検・評価】**

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 その他、学生支援や学生の学習環境や教員の教育環境整備、社会貢献における COVID-19 対応・対策を行っているか。

①その他、研究科として学生支援や学生の学習環境や教員の教育研究の環境整備、社会貢献等における COVID-19 への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。

※取り組みの概要を記入

研究科による学生支援としては、COVID-19 感染拡大の影響で対面による履修指導が必ずしも容易でない中、詳細なオリエンテーション資料を作成してウェブ上で公開するなど、オンラインによる情報提供を以前よりきめ細やかに行っている。社会貢献・社会連携については、大人数を集めることを前提とした従来型の「公開シンポジウム」の開催を慎重に見送りつつ、今後の安全かつ確実なシンポジウムの継続実施に向けて検討を進めている。

【根拠資料】

- ・新入生オリエンテーション資料

**【この基準の大学評価】**

社会学研究科においては、COVID-19 感染拡大の影響で対面による履修指導が容易でない中、詳細なオリエンテーション資料を作成してウェブ上で公開するなど、オンラインによる情報提供を以前よりきめ細かく行うなどの工夫がみられる点が評価できる。

また、社会貢献・社会連携について、安全かつ確実なシンポジウムの継続実施に向けて検討を進めているが、With コロナ、ポストコロナの時代に向けて、シンポジウムの実施方法についてさらに具体的な検討が進められることが期待される。

**III 2020 年度中期目標・年度目標達成状況報告書**

| No | 評価基準 | 教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】                     |
|----|------|--|
| 1  | 中期目標 | 英語による学術論文の執筆を指導する科目である「社会学研究 1」をより実効的なものにしていく。 |
|    | 年度目標 | 「社会学研究 1」の重要性と有効性を学生に周知する。                     |
|    | 達成指標 | 院生 ML を活用して重要性と有効性を周知し、博士後期課程の学生の履修登録を促す。      |
|    | 年度末  | 教授会執行部による点検・評価                                 |

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

|    |       |                       |  |  |
|----|-------|-----------------------|--|--|
|    | 報告    | 自己評価                  | A  |  |
|    |       | 理由                    | 院生 ML のほか、オリエンテーション資料を通じて「社会学研究 1」の重要性と有効性を周知した結果、博士後期課程の院生 3 名が当該科目を受講した。 |  |
|    |       | 改善策                   | 「社会学研究 1」の継続的な受講を推奨する。   |  |
|    |       | 質保証委員会による点検・評価        |  |  |
|    |       | 所見                    | 数年前の状況を考えると、今年度 3 名の受講者があったことは喜ばしい。これが今後も持続することが望まれる。                      |  |
|    |       | 改善のための提言              | 今後もオリエンテーションなどを通じて英語論文執筆の重要性を説明し、「社会学研究 1」という授業の意味を院生に周知していただきたい。          |  |
| No | 評価基準  | 教育課程・学習成果【教育方法に関すること】 |  |  |
| 2  | 年度末報告 | 中期目標                  | 各コースに設けられた「総合演習」を確実に運営する。  |  |
|    |       | 年度目標                  | 「総合演習」の確実な運営に向けて、教員の意見交換の場を設ける。  |  |
|    |       | 達成指標                  | 意見交換の場で行われた検討の結果を確認する。   |  |
|    |       | 教授会執行部による点検・評価        |  |  |
|    |       |                       | 自己評価   | S  |
|    |       |                       | 理由   | 教授会での議論を通して「総合演習」のガイドラインを策定したほか、多くの教員の参加を促すために、両コースの「総合演習」を同一日程で実施する試みを開始した。                   |
|    |       | 改善策                   | ガイドラインに沿ったかたちで、「総合演習」を確実に運営しつつ、さらに実質の伴った運営方法について模索・検討する。                   |  |
|    |       | 質保証委員会による点検・評価        |  |  |
|    |       | 所見                    | これまで曖昧だった「総合演習」の運営方針を、ガイドラインとして明文化したことは評価できる。                              |  |
|    |       | 改善のための提言              | 今後これを実効性あるものにしていただきたい。また、教員参加を促す方法については今後も模索して行っていただきたい。                   |  |
| No | 評価基準  | 教育課程・学習成果【学習成果に関すること】 |  |  |
| 3  | 年度末報告 | 中期目標                  | 院生の学術雑誌への論文投稿を促す。  |  |
|    |       | 年度目標                  | 学術論文執筆のスキルの向上を目的として開講されている「社会学総合演習 A」への積極的な参加を促す。                          |  |
|    |       | 達成指標                  | オリエンテーションや院生 ML を通じて授業の趣旨を周知し、積極的な参加を促す。                                   |  |
|    |       | 教授会執行部による点検・評価        |  |  |
|    |       |                       | 自己評価   | A  |
|    |       |                       | 理由   | オリエンテーションと院生 ML を通じて「社会学総合演習 A」の趣旨を周知した結果、博士後期課程の院生 5 名が当該科目を受講し、雑誌投稿に向けた論文を準備したうえで、教員の査読を受けた。 |
|    |       | 改善策                   | 今後も「社会学総合演習 A」の確実な運営を継続する。   |  |
|    |       | 質保証委員会による点検・評価        |  |  |
|    |       | 所見                    | 査読を経ることで論文の質も向上しており、「社会学総合演習 A」は少しずつ成果が出てきているように思う。                        |  |
|    |       | 改善のための提言              | 単に模擬的に査読を経験するだけでなく、学術論文というものの書き方を実践的に学ぶ機会として今後も有効に活用して行っていただきたい。           |  |
| No | 評価基準  | 学生の受け入れ               |  |  |

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

|                |   |   |  |
|----------------|---|---|--|
| 4              | 中期目標  | 学内進学制度の周知について再検討する。   |  |
|                | 年度目標  | 学内進学制度の効果的な広報の方法について、教員の意見交換の場を設ける。   |  |
|                | 達成指標  | 意見交換の場で行われた検討の結果を確認する。  |  |
|                | 年度末報告   | 教授会執行部による点検・評価  |  |
|                |   | 自己評価  | A  |
|                |   | 理由  | 教授会懇談会において、学部教育との連携を含め、効果的な広報のあり方について意見交換を行った。       |
|                |   | 改善策   | 今後も多様な広報のあり方を模索する。                                   |
| 質保証委員会による点検・評価 |   |   |  |
| 所見             |   | 学内進学には今年度は5名出願者があった。その数が急に増えるということはなかなか期待しにくいですが、最近志願者数は比較的安定してきているように思われる。 |  |
| 改善のための提言       | 今までのような広報活動や教員によるインフォーマルな示唆などを通じて、学内進学という制度の存在を学生に認知してもらう努力をつづけていただきたい。 |   |  |
| No             | 評価基準  | 教員・教員組織   |  |
| 5              | 中期目標  | 学部と連携して教員組織の円滑な世代交代をはかる。  |  |
|                | 年度目標  | 退任した教員の充足との関連において、研究科のニーズが反映された採用を学部に働きかける。                                 |  |
|                | 達成指標  | 後任人事に関連する研究科のニーズを学部に申し入れる。  |  |
|                | 年度末報告   | 教授会執行部による点検・評価  |  |
|                |   | 自己評価  | A  |
|                |   | 理由  | 学部に研究科のニーズを伝えるとともに、学部に新規採用された若手教員2名を大学院にも迎えることを決定した。 |
|                |   | 改善策   | 今後退職する教員の充足について中期的な補充計画を策定する。                        |
| 質保証委員会による点検・評価 |   |   |  |
| 所見             |   | 本年度は評価通り、当初予定が実行された。  |  |
| 改善のための提言       | 中期的な補充計画を策定するために、この研究科のニーズをより具体的に把握していただきたい。                            |   |  |
| No             | 評価基準  | 学生支援  |  |
| 6              | 中期目標  | 2017年度博士後期課程研究業績目録の公開を進め、院生進路開拓に役立てる。                                       |  |
|                | 年度目標  | 2019年度の研究業績目録のWeb上での公開を進める。   |  |
|                | 達成指標  | 研究業績目録をWeb上にアップして広く公開する。  |  |
|                | 年度末報告   | 教授会執行部による点検・評価  |  |
|                |   | 自己評価  | A  |
|                |   | 理由  | 研究科HPに目録に関する項目を新設し、2019年度の研究業績目録をより可視的な形でWeb上で公開した。  |
|                |   | 改善策   | 今後も研究業績目録の公開を継続する。                                   |
| 質保証委員会による点検・評価 |   |   |  |
| 所見             |   | 本年度は評価通り、当初予定が実行された。HP上でアクセスが容易になった点は評価できる。                                 |  |
| 改善のための提言       | 学位取得者、満期退学者にも掲載希望を確認していただきたい。   |   |  |
| No             | 評価基準  | 社会連携・社会貢献   |  |

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

|  |          |  |  |
|--|----------|--|--|
| 7  | 中期目標     | 大学院教育のなかでの社会連携の可能性について検討する。                    |  |
|  | 年度目標     | 公開シンポジウムの継続に向けた体制整備について検討する。                   |  |
|  | 達成指標     | 公開シンポジウムの継続に向けた体制整備についての検討結果を確認する。             |  |
|  | 年度末報告    | 教授会執行部による点検・評価                                 |  |
|  |          | 自己評価   | A  |
|  |          | 理由   | 公開シンポジウムの継続に向けた体制整備について、学部学会運営委員会と意見交換を行い、その結果を教授会懇談会において共有した。 |
|  |          | 改善策  | 公開シンポジウムの継続開催に向けて、学部学会運営委員会と連携しつつ検討を進める。                       |
| 質保証委員会による点検・評価   |          |  |  |
| 所見   |          | 本年度は評価通り、当初予定が実行された。                           |  |
|  | 改善のための提言 | 公開シンポジウムのコンセプトや具体的内容、実施実現に向けて具体的な検討を進めていただきたい。 |  |
| <p><b>【重点目標】</b><br/>         昨年度、社会学研究科による社会貢献・社会連携の試みとして行った公開シンポジウムを、今後継続的に行うための体制整備について検討すること</p> <p><b>【目標を達成するための施策等】</b><br/>         社会学研究科による社会貢献・社会連携施策としての公開シンポジウムを継続的に実施するための体制整備について、教授会で検討する</p> <p><b>【年度目標達成状況総括】</b><br/>         公開シンポジウムの実施体制について学部学会運営委員会と意見交換をおこない、教授会懇談会でもその情報を共有することで、継続開催に向けてある程度の見通しを立てることができたほか、退任教員の充足との関連において新任教員2名の採用を決定したこと、「社会学研究1」及び「社会学総合演習A」への院生の積極的な参加が図られたことにおいて、今年度の目標が達成できた。とりわけ、「総合演習」の運営については、教授会の議論を通してその意義を確認するとともに、ガイドラインを策定し、確実な運営を可能にする仕組みづくりをおこなった。また、両コースの「総合演習」を同一日程で開催するなど新しい試みも実験的におこない、目標以上のことを達成することができた。</p> |          |  |  |

**【2020年度目標の達成状況に関する大学評価】**

|   |
|---|
| <p>社会学研究科においては、各コースに設けられた「総合演習」について、教授会での議論を通して「総合演習」のガイドラインを策定したほか、多くの教員の参加を促すために、両コースの「総合演習」を同一日程で実施する試みを開始した点は評価できる。今後、ガイドラインに沿ったかたちで、「総合演習」を確実に運営しつつ、さらに教員参加を促す方法について引き続き検討が進められることが期待される。</p> <p>また、大学院教育のなかでの社会連携の可能性について、また公開シンポジウムの継続に向けた体制整備について、学部学会運営委員会と意見交換を行い、その結果を教授会懇談会において共有した点は評価できる。</p> |
|---|

**IV 2021年度中期目標・年度目標**

|    |      |   |
|----|------|---|
| No | 評価基準 | 教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】                                |
| 1  | 中期目標 | 英語による学術論文の執筆を指導する科目である「社会学研究1」をより実効的なものにしていく。             |
|    | 年度目標 | 「社会学研究1」の継続的な履修を促進する。                                     |
|    | 達成指標 | オリエンテーションと院生MLを通じて「社会学研究1」の重要性を周知し、博士後期課程の学生の継続的な履修登録を促す。 |
| No | 評価基準 | 教育課程・学習成果【教育方法に関すること】                                     |

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

|  |      |  |
|--|------|--|
| 2  | 中期目標 | 各コースに設けられた「総合演習」を確実に運営する。                      |
|  | 年度目標 | より実質的な「総合演習」の運営に向けて、運営方法を模索・検討する。              |
|  | 達成指標 | 社会学・メディア両コースの「総合演習」を同一日に開催し、その結果を教授会等で確認・共有する。 |
| No   | 評価基準 | 教育課程・学習成果【学習成果に関すること】                          |
| 3  | 中期目標 | 院生の学術雑誌への論文投稿を促す。                              |
|  | 年度目標 | 「社会学総合演習 A」への継続的な参加を促す。                        |
|  | 達成指標 | オリエンテーションや院生 ML を通じて授業の趣旨を周知し、継続的な参加を促す。       |
| No   | 評価基準 | 学生の受け入れ  |
| 4  | 中期目標 | 学内進学制度の周知について再検討する。                            |
|  | 年度目標 | 学内進学制度についての有効な広報のあり方を探るため、制度利用者へのヒアリングを実施する。   |
|  | 達成指標 | 学内進学制度利用者へのヒアリングを実施し、その結果を教授会等で確認・共有する。        |
| No   | 評価基準 | 教員・教員組織  |
| 5  | 中期目標 | 学部と連携して教員組織の円滑な世代交代をはかる。                       |
|  | 年度目標 | 今後の後任人事に関連する研究科のニーズを具体的に把握する。                  |
|  | 達成指標 | 今後 10 年間に定年を迎える教員を把握し、その情報を教授会等で確認・共有する。       |
| No   | 評価基準 | 学生支援   |
| 6  | 中期目標 | 2017 年度博士後期課程研究業績目録の公開を進め、院生進路開拓に役立てる。         |
|  | 年度目標 | 2020 年度の研究業績目録を作成し、Web 上で公開する。                 |
|  | 達成指標 | 研究業績目録を研究科 HP にて広く公開する。                        |
| No   | 評価基準 | 社会連携・社会貢献                                      |
| 7  | 中期目標 | 大学院教育のなかでの社会連携の可能性について検討する。                    |
|  | 年度目標 | 公開シンポジウムの継続開催に向けて、企画案などの具体的な検討を進める。            |
|  | 達成指標 | 公開シンポジウムの開催に向けた具体的な検討結果を教授会等で確認・共有する。          |
| <p><b>【重点目標】</b><br/>社会学研究科による社会貢献・社会連携としての公開シンポジウムの継続開催に向けて、企画案などの具体的な検討を進める。</p> <p><b>【目標を達成するための施策等】</b><br/>今後行う公開シンポジウムの具体的な企画案について、学部学会運営委員会と意見交換を行い、その結果を教授会等で確認・共有する。</p> |      |  |

#### 【2021 年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

社会学研究科においては、2021 年度目標が適切に設定されている。英語による学術論文の執筆を指導する科目である「社会学研究 1」をより実効的なものとし、また継続的な履修を促進するために、オリエンテーションや院生 ML を通じて当該科目の重要性を周知し、さらに博士後期課程の学生の継続的な履修登録を促すこととしている。他の目標についても 2020 年度の目標達成状況により 2020 年度から継続した目標が設定されている。

院生の学術雑誌への論文投稿を促すために「社会学総合演習 A」への継続的な参加を促し、オリエンテーションや院生 ML を通じて授業の趣旨を周知し、継続的な参加を促すことを目標としているが、こうした取り組みが着実に実施されることを期待したい。

#### V 2019 年度認証評価指摘事項に対する改善計画報告

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

| No. | 種 別                    | 内 容  |
|-----|------------------------|--|
| 1   | 基準                     | 基準1 理念・目的  |
|     | 指摘区分                   | 概評   |
|     | 提言（全文）                 | ただし、 <u>社会学研究科とデザイン工学研究科では、「人材の育成に関する目的及び教育研究上の目的」を修士課程、博士後期課程で同一としているため、課程ごとにこれを定め、公表するよう改善が望まれる。</u> |
|     | 大学評価時の状況               | 「法政大学大学院学則」の[別表V]において、「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」が修士課程、博士後期課程で同一となっており、課程ごとに定められていない。                    |
|     | 大学評価後の改善状況・改善計画        | 2020年12月1日の教授会において、課程ごとに「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」を定めた学則改正案が承認され、学則改正（2021年4月1日改正）を経て改善が行われた。           |
|     | 「大学評価後の改善状況・改善計画」の根拠資料 | 「法政大学大学院学則」の[別表V]  |

#### 【認証評価結果における指摘事項への対応状況に関する評価】

社会学研究科においては、2019年度認証評価結果において「人材の育成に関する目的及び教育研究上の目的を修士課程、博士後期課程で同一としているため、課程ごとにこれを定め、公表するよう改善が望まれる。」という指摘を受けているが、2020年12月1日の教授会において、修士課程、博士後期課程ごとに「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」を定めた学則改正案が承認され、学則改正（2021年4月1日改正）を経て改善が行われており、着実に対応が進められている。

#### 【大学評価総評】

社会学研究科においては、修士課程において、コースごとの学習体系と並行して、各修士課程学生の修士論文執筆に向けた研究活動を支援し、指導していくための「総合演習」を設置されている。また、大学院生の学術雑誌への論文投稿を促すために、「社会学総合演習A」への継続的な履修を促し、オリエンテーションや大学院生メーリングリストを通じて授業の趣旨を周知し、継続的な参加を促すとされており、こうした取り組みが着実に実施されることが期待される。

学院教育のグローバル化推進の取り組みとして、博士後期課程においては、英語で学術論文を執筆するための科目として「社会学研究1 (Academic English Writing Skills for the Social Sciences)」が設けられている。2018年度担当教員の退職により休講になったが、2019年度以降は開講する体制が確立され毎年度開講されていることは評価できる。今年度も当該科目の継続的な履修を促進するために、博士後期課程の学生の継続的な履修登録を促すとしており、こうした取り組みもまた着実に実施されることが期待される。

また、今年度重点目標として設定されているWithコロナ、ポストコロナの時代に向けて、「公開シンポジウム」のあり方に関する検討がさらに進められることが期待される。

なお、自己点検・評価シートでの自己点検において「問題点」が挙げられていなかったが、2020年度目標が概ね達成されていた場合についても今後の発展のために必要であると考えられる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。